

かわさき市民オンブズマン 会 報 第51号

隔月発行

2006年2月1日

主張 南伊豆保養所用地問題は究極の税金無駄遣いである
川崎市議会は市民の代理人として、100条委員会で
疑惑を明らかにする義務がある（議員さん出番ですよ！）
代表幹事 江口武正 2

9月完成の「ラゾーナ川崎」多目的ホール設置（朝日新聞1月7日） 3
使えない剰余金（川崎臨港倉庫の実態） 望月文雄 4
住民側が実質逆転勝訴（毎日新聞1月19日） 6
報償費返還求め県警を市民提訴（しんぶん赤旗1月14日） 6

十字路

山田 朗教授の回答 清水芳治 7
堀江社長逮捕に関連して 佐々木玲吉 8
トルコ紀行 1 タシケント 望月文雄 8

次世代ミサイル共同開発（しんぶん赤旗1月19日） 10

会計報告 11

編集後記

**2006年度定例総会
5月14日日曜日に
エポックなかはらで開催**

主 張

南伊豆保養所用地問題は究極の 税金無駄遣いである

川崎市議会は市民の代理人として、
100 条委員会で疑惑を明らかにする義務がある
(議員さん出番ですよ！)

代表幹事 江口 武正

究極の税金無駄遣いである南伊豆保養所用地を最低売却価格 5260 万円で川崎市の土地開発公社が一般競争入札方式により民間売却として売りに出したことは先月号でお知らせした。その後応札したのは 1 名だけであり、5570 万円で 12 月 22 日にとうとう売却された。

6 億 1700 万円で買った土地をまったく利用することなく放置し、あげくのはて 5570 万円で売ったという究極の税金の無駄遣いを川崎市が行ったことになるわけである。

銀行からの借入れで購入しており、利子も 1 億円以上積み重なっており 6 億 5000 万円以上の税金が溝に捨てられるように無駄に使われたのである。

(注：実際は川崎市土地開発公社（以下公社と略称）が 1996 年に川崎市の意向で南伊豆の魅力のない土地を約 6 億円で購入し、今回の売却も公社が当事者である。しかしながら公社は川崎市の直轄であり川崎市の指令で土地を購入しており、公社と川崎市は一体であり、実質川崎市が税金を無駄遣いしたことになる。)

以下に「問題点」と「議員の参画期待」を箇条書きに記載する。

1. 非常な高価での購入

問題は約 6 億円もの多額の費用で買い付けるような立派な土地ではなかったことである。問題の土地は公社に売った学校法人の伊東学園が僅か 2 年前に 2 億円で買ったもので、2 年間置いただけで伊東学園は 4 億円以上の儲けを上げたわけだ。財政難の時期に、まったく不自然な土地取得であった。また保養所新設の客観的理由がまったくなく、取得の目的に疑惑があることである。

2. 裁判所も不当に高い買い物と評定

我々は、約 6 億円は不当な高額購入であり、常識的な価格での買戻しをすべきとの監査請求を行い、売却されたため住民訴訟に踏み切った。裁判では土地価格が順当であるかが争われ、裁判所が指定した不動産鑑定士は約 3 億 9000 万円と評価した。川崎市は執拗に 6 億円の正当性を主張し、無謀にも裁判に勝つために別の不動産鑑定士にまたまた高い鑑定料を支払い 7 億 2400 万円との不動産鑑定を裁判所に提示した。

結果として、裁判所認定の太田鑑定の 3 億 9400 万円が正当と裁判所は判断し、一、二

審とも、川崎市が敗訴となった。川崎市は3億9400万円以上で公社から土地を買戻してはならないとの裁判所の判断が出たわけである。裁判所がこの土地は3億9400万円以上の価値はないと断定したわけである。

3. 低価格売却

購入では6億円以上の土地を公社が処分するためにもたまた不動産鑑定を専門家に依頼し、なんとなんと今回は5260万円と評価が出されたわけである。

川崎市が厚顔にも、6～7億円の価値があると強硬に主張していた土地は5260万円の価値しかないとして入札され、5570万円で売却されたのだ。

財政難の川崎市が大切な税金を使用するのだから、購入は出来るだけ安くする、売却は出来るだけ高く売るのが当り前のことだが、それぞれの不動産鑑定書を見ると、川崎市は購入を出来るだけ高く、売却は出来るだけ安くしているのが明確に判ってしまうのである。

財政難だといひ、市民に対する負担は着々

と増やし、かたや率先して税金の無駄遣いをする川崎市に税金不払い運動が起こらないとはかぎらないと警告したい。

4. 市議会の出番ですよ

問題はこれだけの税金の無駄遣いを行い、誰も責任を取らないことである。

阿部市長に市民への謝罪を申し入れをしたが、謝罪の意向はまったくないようである。市民サイドでは働きかけに限界があり、市民の代理人として行政を監視する議員の職責を今こそ果たすべきときだと思うが議員の皆様はどのような見解であるか、一人一人にお聞きしたいものである。

裁判で川崎市が敗訴したときも100条委員会設置をお願いしたが、まったく動く気配がなかった。今回こそイデオロギーを越えて議会の良識を表す時だと思う。

議会もこれだけの多額な無駄遣いの問題を追及しないのでは、その存在意義がまさに問われるところである。

いまこそ議員さん出番ですよ！！

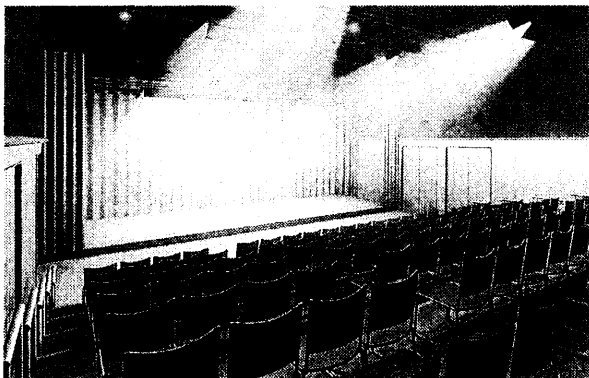
14版 2006年(平成18年)1月7日 土曜日 享月 三

9月完成の「ラゾーナ川崎」

多目的ホール設置

川崎市は、今年9月にJR川崎駅西口の東芝工場跡地に完成する大型複合商業施設「ラゾーナ川崎」(6階建て)の5階に市民文化施設を設ける。広さ約600平方メートルの小ホールで、講演や音楽、展示会などといった多目的ホールとして市民に利用を呼びかけていくという。また、施設の愛称を募集する。

「ラゾーナ」5階は「エンターテインメントゾーン」として、多目的ホール以外に、シネコンやスポーツジムなどが入る予定だ。ホールの座席は基本舞台の使用時で200席。立ち席の場合には500人が入るといふ。



川崎市が「ラゾーナ川崎」に整備する多目的ホールの完成予想図 (川崎市提供)

2月から工事に入り、9月にオープン。10月には記念事業を催し、11月から一般利用を始めていくという。整備後は市文化財団に貸し付け、財団とNPO法人が管理運営していくという。

施設の愛称は、はがきに、愛称名、理由、住所、氏名を記入し、〒210-0007、川崎市川崎区駅前本町12の1、

使えない剰余金

(川崎臨港倉庫の実態)

望月 文雄

第三セクター「川崎臨港倉庫株式会社」の創立は、当時の川崎市にとっては、臨時議会を開催して議会承認を取り付けなければならない重要なものでありました。私が情報公開を依頼して、議会事務局が送付してきた、昭和35年6月の議会議事速記録はB5用紙に、5号活字3段組31ページに及びます。

私が川崎市の出資25%以上の第三セクター36社(平成16年度)の中から、川崎臨港倉庫株式会社を調査対象に選んだ理由は、川崎港の総合管理を行っている川崎市が設立し、先年破産したかわさき港コンテナターミナル株式会社構想に共通する、基礎的な考え方があるに相違ないと考えたからですが、第三セクターであるゆえの、非常に珍しい現象が生じているのを見つけました。

それは、総会資料を見れば、一目瞭然なのですが、何故?という関心がなければ、羅列された数字に示されている事実は見逃してしまうでしょう。私は全くの素人ですので、「珍しい現象」と言ったことが正しいかどうかは分かりませんが、説明してみます。

1. 市の基本姿勢

一番大きなポイントは、戦争直後といえる、昭和22年に川崎市が市営倉庫を設立したことでしょう。昭和35年6月13日に開かれた臨時市議会の初日、陣内港湾局長の議案第71号の説明の中に叙述されていますので、長文ですが引用します。(「川崎臨港倉庫株式会社(仮称)への現物出資について」の上程理

由説明は速記録で4ページ、原稿用紙20枚に達する長いもので、恐らく所要時間3時間におよぶと思われます。)

(速記録3～4ページより抜粋)

「運輸省港湾局長から昭和32年12月10日に出された通達は、『港湾管理者が資本参加等によって実質的に支配する、いわゆる埠頭会社、港湾運送業、倉庫業等を経営しようとするときは港湾法第13条の規定の趣旨にかんがみ左記に留意の上遺憾のないよう措置されたい』、『記、地元の関係官公庁、関係業界の代表者等をもって構成する審議会を設置し、経営することの適否について事前に慎重な審議を行い、その結論を尊重するものとする』というものでございます」と前置きし、港湾法第13条にのっとった川崎の関係業者との話し合いの経緯に及びます。

「それで今年の6月17日以来今日まで20数回にわたりまして地元7業者のうち大手でございます三井、東洋埠頭その他5業者と市は会議を重ねて参ったわけでございますが、その会談の内容をここで事こまかに申し上げることもいたずらに時間の空費と考えますので、段階的に申し上げますと、まず当初第1回にお会いしましたときの先方の言い分でございますが、『従来私も再三にわたって市に陳情書を出してお願いしておった線は、市の直営をやめてわれわれと一緒に公私合営の倉庫会社を作ってわれわれにも参加させてもらいたい、こういう趣旨でございましたが、

今日申し上げることは今までと変わりまして、一切市は倉庫業から手を引いていただいてわれわれにまかしていただきたい、こう申し上げたい』こういうことでございました。

それで私どもこの案に大へん驚きまして、そういうむちゃなことはないじゃないか、従来再三にわたってわれわれと一緒に会社を作っていたらいい話であったのが、百八十度転換なさることは納得がいかない、まして港湾法云々と皆さんはおっしゃるが、実績が示しているように川崎市は昭和22年11月から営業をやっておって、過去13年間も実績があるのだ。皆さんは、『現に7都市で公私合営の倉庫会社ができているが、どこも、長いのは8年にもなっているにもかかわらず一銭の配当もしておらないようなことで公私合営の会社というものはなかなかうまくいかない、だから市はあっさりこの際手を引いていただいて、倉庫はわれわれに貸し付けていただきたい。なお今後の倉庫の発展に伴って新設すべき倉庫用の敷地も随時貸し付けていただきたい』と言われるが、そういうことはとうてい容認いたしがたい。他都市の例はいざ知らず全国唯一とはいえ川崎市は過去十何年来の倉庫営業の実績を持っているからして、他都市の例をあげてとやかく言われることはおかしい、こういうことで先方の説得に努めたわけでございます。

港湾管理者であるという川崎市の直営倉庫への思い入れ、さらに、自負の強さのうかがえる記録です。紆余曲折を経た後、公私合営の第三セクター設立に至り、議案第71号提案になりました。翌日以降の質疑応答に出された新設会社の採算性への港湾局長回答は、「当面1億円程度の借入金をいたします関係もございまして、この35年度では株式会社を作って倉庫を建設するというのでございまして、倉庫も赤字になろうかと考えます。来年度は収支の推算をいたしてみますと、550万円程度の収入にはなりますが、配

当いたす程度には相ならぬと考えます。その次の年度で961万円程度の黒字、そういうことで36年度、37年度で35年度の赤字が現実に消えるのではないかと。41年度で借入金返済になる見込みでございまして、大体40ないし41年度あたりから5分程度の配当ができるのじゃなかろうか、このような推算をいたしておるわけでございます。」（速記録6ページ）。

2. 経理上の問題

私が公開を求めた利益処分計算書によれば、昭和41年度以降平均1200万円程度の配当金支出を続けているので、議案提出時の港湾局長の回答は正当性を持っていたと判断できるようです。

ところが、インターネットのホームページを開いて、決算情報を見て驚いたのです。平成16年度の剰余金が17億3670万円余もあるのです。川崎市の第三セクター一番の金持ち会社ということになるのでしょうか。この剰余金をどのように使うのか注目に値するものであるようです。再三にわたる情報公開請求は煩わしいのと、時間がかかるので、1月19日にメールで5点ほど質問をしたら、23日にメールで「情報公開制度を順守する上でもメール及び電話等による情報提供等の依頼に関しましては、弊社にとって依頼者の真偽の判断が困難であることに加え市関係部局との調整対応等も有り施策上軽率に返答することは憚られるため、この度メールによるご質問事項についても同様に回答はご容赦賜りますようここに書面にてご通知申し上げます。」云々という慇懃なメールでの拒絶がありました。正式な情報公開でなければだめだと判断し、昨日（1月24日）、午前中に情報公開を求めました。今までは、個人名でしか情報公開を求めませんでした。メールの文面が気に障りましたので、「かわさき市民オ

十字報

山田 朗教授の回答

清水 芳治

この1月25日、映画人九条の会が主催する「護憲派のための軍事講座—自衛隊が《自衛軍》になるとどうなるか—」という勉強会が開催された。講師は明治大学の山田教授。

山田教授は報告の目的を①自民党憲法草案の問題点をさぐる、②軍事力としての自衛隊の特徴をまとめる、③憲法改悪による日本のさらなる軍事大国化と軍事力の海外展開を許さない道を考えることの3点に置いていた。

自民党憲法草案の問題点も②③もあちらこちらで取り上げられているので、報告に対する質問と教授の回答を記憶にもとづき、自分なりの修飾を加えながら、書きとどめておきたい。

種々の質問の中で再軍備論者が取り立てて論うのは、①外国の軍隊が攻めてきたらどうするのか、ハナから降伏するのか、②北朝鮮のミサイル攻撃を抑止力もなしにどうやって防ぐのか、また、③永世中立国のスイスさえ武装中立なのに、非武装中立など平和ボケだということに尽きると思われるので、この部分に関する教授の回答を紹介しておこう。勿論、私も教授の見解を支持する。

島国の日本は四方を海に囲まれているので日本に侵攻し占領するためには空からか或いは海からか兵力を送り込まなければならない。かつての冷戦時代のソ連だったら或いは制空権を握り空から兵隊を送り込んだり、上陸用舟艇で北海道に上陸することが可能だったかも知れない。しかし今ロシアとの緊張関係はない。

そこで話を短くするために北朝鮮を仮想敵国として検討してみると彼我の空軍力で北朝鮮が空を制し、船を日本海に浮かべ兵を日本に送り込むと考えるのは、かの国の力量からほとんどあり得ない。日本海沿岸にある原発をミサイル攻撃したらどうする？ ノドンの精度は極めて低い、ピンポイント攻撃には適さない、もし原発を攻撃するとしたら1基を破壊するのに数十ないし百発近くを発射しなくてはならない、果たして北にそれだけのミサイルがあるか、そしてそれだけのミサイルに直ちに充填する燃料が準備されているか、しかも原発攻撃で被害を与えることができても日本を制するには至らないし、自国の防衛はすっかりお留守になってしまう、自爆するならともかく軍事的には考えられないと回答している。

舟艇を用いて上陸作戦を展開できる軍事大国はまずアメリカ、フォークランド戦争を考えればイギリスも可能かも知れないが、今の中国の海軍は外洋艦隊に編成するにはまだまだ時間を要する、上陸作戦はかなり難しい作戦である、つづめて言えば日本に侵攻してくる外国はほとんどあり得ない。

憲法を改悪し再軍備を叫ぶ自民党さえ「差し迫った脅威」を強調していないことは皆さんも良くご存知である。

従って、武装中立のスイスとの比較は地理的・政治的・歴史的・条件の違いに目を瞑り、ためにする議論の誘りはまぬかれない。

とりあえず、平和主義者がもっと軍事科学の知識を身に付け論戦場での確に応戦する必要性を改めて痛感した一日であった。



堀江社長逮捕に関連して

佐々木玲吉

時代の寵児ともてはやされたライブドア社長堀江貴文が逮捕されました。莫大な資金を作り、企業乗っ取り、買収等マネーゲームをやっていた彼は、実は犯罪者（まだ裁判の結果は分からないが）であったのです。しかも、小泉総理、竹中総務相、武部幹事長らは先日の選挙の時は「これぞ新しい型の経済人」「われわれの叫ぶ構造改革の旗手」として持ち上げ、相当のエネルギーを費やして、彼を応援していました。その責任はどうなるのでしょうか。

自民党幹部のおえら方達は、彼堀江のやり方が、方法がまずかった、われわれの基本方針は何の間違いもないと言っています。とんでもない迷想です。

新自由主義、市場主義を標榜し、民間にできるものは何でも民間へ、規制緩和、儲ければ何でも良い、改革、改革と叫んでいた結果がこれであり、姉歯建築士による耐震強度偽装事件も同根であります。これらはすべて政治の根本理念に拘わる問題です。

今の小泉、竹中ドクトリンは米国流の資本主義経済を手本とし、米国に追随することをもってよしとするのであるから、このような結果になったのでしょう。真面目に国民の生活に目を向けていたならば、このような問題は起きなかったでしょう。今回は即刻辞職に値する問題と考えます。

常に顔を米国に向けているから「われわれは、間違っていない」などと言うのです。

川崎市も、中央省庁の意向を受けて、規制緩和、民間委託等多々考えているようですが、再考すべきものは多くあると考えます。

トルコ紀行

1 タシケント

望月 文雄

亡妻の遺品の処理の目安が付き、私は目まぐるしい日常を離れたかった。3月末に届いていた旅行会社の案内書を開いたとき、ヨーロッパではなく中近東、できればトルコかなと漠然と思いついた。こげ茶色のインデックスはトルコ・エジプト・モロッコと書いてある。トルコのページを開くと、眼についたのは、9、10日で15万9800円という安い費用。DM-606という番号を控えて、旅行会社に電話で申込む。予約番号は4870-848、最終キャンセルは5月13日。翌々日、同じ旅行会社から「トルコ15日間モニター周遊、14万9800円という案内の葉書を落手、アレ！」と眼を見張る。早速、葉書にある電話先に連絡、フライト決行の様子がわかるまでは、2つの予約をしたいと意向をはなすと、どちらかに決めてくださいという。モニター周遊の催行は決定かと念を押すと「はい」という返事が返ってきた。先の予約はこちらで取り消しますというので、コースと予約番号を伝える。

今回は一人旅、とは言うものの、亡妻の分骨と使わなかった入れ歯を入れた小さな骨壺と写真を携帯することにした。

夫婦での海外旅行を楽しみにしていた妻への思い。

ウズベキスタン航空？ 始めて聞く航空会社名。インターネットで探索すると、ロシアから独立して間もない中央アジアの国であることが分かった。しかし、私の記憶にはシベリア抑留者の何万人かがシベリアから移動させられた国（当時は地方）とは思いつかなかった。

旅行に出る10日ほど前、ネットで海外安

全情報を探索すると、4月にイスタンブールで爆弾事件が発生したり、ウズベキスタンで大統領への反対デモが発生したが、現在は平穏。しかし、治安には注意をということだった。その情報を見たとき、2週間ほど前に、デモ参加の民衆数百人が殺害された模様というニュースが流れたことを思い起こした。出発日の1週間前、添乗員からの確認と注意事項の連絡電話が入った。2件の情報を伝えると「現在は落ち着いていて、治安は守られているので、催行の変更はありません」という。

トルコ周遊を決めてから、観光のポイントをどこに置くか迷った。数冊のガイドブックを購入し、ページをめくっても、ポイントが絞れない。コースの案内状から、宿泊地や観光予定地を書き出し、主要な場所を調べてもだめ。イスタンブールはビザンチン帝国の首都で、コンスタンティノープルという都市だったのだから、その歴史に親しもうと、塩野七生の「コンスタンティノープルの陥落」を読むことに決めた。キリスト教の最初の公会議が開かれたニカイアとか、使徒パウロの誕生地タルシシ、カナン入植まえのアブラハムが父と暮らした、ハランも、箱舟伝説のアララテ山も旅行のコースに入っていないので、聖書中心のポイントは取れなかったのだ。後でこれが大失敗だったことになるのだが。

羽田空港のフライトが予定より1時間遅れて、11時を廻り、関西空港へ寄るコース設定が腑に落ちなかったが、週2便のウズベキスタン航空は成田発関西空港寄港でウズベキスタンの首都タシケントへフライトする定期航路が設定されているらしい。関西空港で若干の同行者が乗り込み、フライトしたのは午後1時過ぎ。

タシケントに到着したのは現地時間で夕方5時半過ぎ。飛行時間13時間弱はモスクワ経由でヨーロッパへ行くときの、成田～モスクワ間とほぼ同じ所要時間だ。添乗員がウズベキスタン観光とトルコ行きは空港内のバス

が異なるので、乗り間違えないようにと再三説明する。HY 528便を降りると、機外の温度は30度を遥かに超えている、日本の真夏、灼熱という気温。体中から汗が噴出する。空港内の移動用バスが2台ずつ、左右に分かれて止まっている。確かに、どっちに乗っているのか戸惑う。添乗員の小旗を目印に流れに従う。

タシケント空港は軍用空港も併用とかいう人のささやきが聞こえたが、確認の必要はない。バスはノンステップの床が低い形、座席は中央部分左右に背中合わせのものが2つずつ設置されているだけで、乗る人の大部分は立ちっ放し。持物は小型のリュックサックや、サブザックなのだが、トルコ観光へのグループらしい団体が3組も乗り込んだので、通勤の満員電車のような。べとつく肌が触れ合っ

て気持ち悪い。移動は4、5分かかる。古めかしい2階建ての建物の前で下ろされた。大きなプラタナスの木が建物の前に植えられていて木陰をつくっている。旅行者は外階段から2階へ上がり、添乗員の入国手続きの間、奥の待合室で乗り継ぎ便の案内を待つ。待合室は休憩座席の後ろが広い階段で、1階に降りられる。1階は椅子が5、60席あり、ウォータークーラーが売店側の壁際に備えられている。使い捨てのプラスチック製コップがクーラーの側面に備えてあり、料金は不要。サービスらしい。反対側に洗面所があり、その北側が出国検査室、兼待合室だ。この待合室は出国検査完了者専用。飛行機に搭乗するものは各自がチケットをチェックされた上で、移動バスに乗車する。

この建物は国外旅行出入国の施設として作られているらしいが、規模が小さい。自国の海外旅行者はいたって少ないのだろう。（昨年末世界陸上競技の東京会場で体操選手権があり、ウズベキスタンの女子選手が出場していた。1人で参加したのではないだろうが、

国の選手に選ばれて日本へ来るのに、あのタシメント空港からフライトしたのかと思うと懐かしさを感じた。エリートだから選ばれたのに相違ないが。

私は洗面所の男子トイレで、用意してきたインシュリンの注射をした。トイレのドアの施錠がきかず、少し嫌な気持ち。リュックサックの中の、妻が苦笑しているようだ。汗拭きを全部トランクに入れて預けてあるので、取

り出せない。乗り継ぎに要した時間は1時間余り、待合室の2階のテレビは日本とトルコのサッカーの実況放送だったようだ。イスタンブールへの飛行時間は約5時間だという。「アアア」という同行者たちのため息が一斉に出る。皆疲れているようだ。エコノミー症候群に罹った人が1人もいないのは、夫々に旅慣れているということか。

06年度 予算案の焦点

□9□

政府は、二〇〇六年度の軍事費(防衛関係費)について「対前年度0.9%の削減を実現」と誇ります

新たに経費30億円

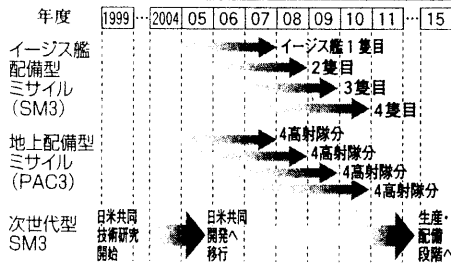
増加が目立つのは「ミサイル防衛(MD)関連経費。政府・防衛庁が導入を開始したのは〇四年度予算からで、年々その経費は増加。〇六年度予算案では、〇五年度比で16.8%増の千三百九十九億円(二百一億円増)に達しました。「ミサイル防衛」関連経費

としては、過去最高額です。今回は、新たに次世代型SM3について日米共同開発に乗り出す経費約三十億円も計上しました。「ミサイル防衛」はブッシュ米政権が推進しているもので、相手側のミサイルを撃ち落とすことで、報復の心配なく先制攻撃を可能にするシステム。米國からの導入だけでなく、ともに

次世代ミサイル共同開発

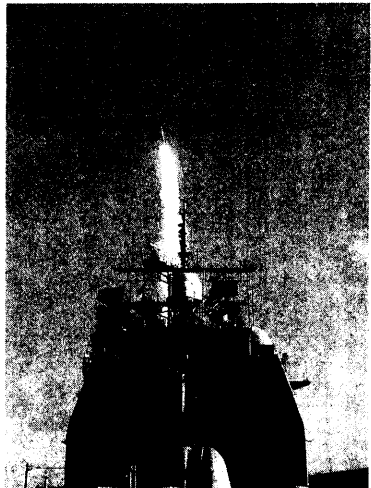
軍事費

政府が計画する「ミサイル防衛」システムの導入構想



共同開発に乗り出すことは、日本が米戦略により深く組み込まれ、支える役割を担われることになります。在日米軍再編のなかで焦点の一つになっている、陸上自衛隊の「中央即応集団」(約三千二百人)の新設も決めました。「中央即応集団」の司令部は、陸自の

米軍キャンプ座間(神奈川県)に、「中央即応集団」司令部を米陸軍新司令部とともに設置することで合意しましたが、地元自治体は強く反対。このため、暫定的に陸自朝霞駐屯地(東京、埼玉)に司令部を設置し、そのうえでキャンプ座間への移転を狙う計画です。「思いやり予算」もこのほか、イラク派兵経費に、百四十六億円を計上しています。(おわり)



米イージス艦から発射されるSM3ミサイル(米軍ホームページから)

海外派兵の計画・訓練・指揮を一元的に実施します。日米両政府は昨年十月、政府として「我が国に対する本格的な侵略事態生起の可能性は低下」(新防衛大綱、〇四年十二月)と判断しているながら、大規模な陸進攻を想定した装備調達も継続しています。90式戦車十一両のほか、対戦車ミサイルを装備したAH64D戦闘ヘリコプター一機、F2戦闘機五機の経費を計上しています。

編集後記

○佐々木さんの原稿にあるが「ライブドア」問題は小泉構造改革路線の徒花なのか、それとも嫡出子なのか。論議の分かれるところだろう。ただ錬金術に正統と違法があることが分かっただけでも勉強にはなる。

○毎日新聞の小さな記事だったが、阿部市長の来年度予算の眼目は福祉と児童だと報じられていた。批判する政党は「市民に冷たい阿部市政」といっている。問題にしたいのは毎日新聞の記事が阿部市長の言明を検証抜きで報道したのか、それとも予算の骨格を分析した上で、市長言明と予算の内容は合致すると判断したのかである。というのは裏返していえば、記事は批判政党の言動は虚偽である、という内容を含意しているからである。どうもこうした記事が多いように見受けられて仕方ない。

○国家予算に目を向けると、歳出削減、所得税増税が否応なしに飛び込んでくる。軍事費も一見削減されているようにみえる。一部の人は軍事科学の研究が技術革新を押し進める、決して無駄ではないなどという。こうした発言を聞いていると、どこぞの市長が、いま開発に金を回しておけば、いずれプラスになって市民に返ってくると言っている言葉を苦々しく思い起こす。

○新年を迎えたと思ったらこの会報を発行する2月を迎えている。幹事会では2006年度の新役員人選、定例総会会場の決定など、すでに5月の行動を視野に入れて動き始めている。それと2005年度会費未納の会員に会費納入のお願いしている。会の方針として前年度会費未納者は6月時点で自動的に除籍せざるを得ないからだ。この点、ご了解いただきたい。（清水）

会計報告

2005年4月1日～2006年1月27日

一般会計

収 入 (円)		支 出 (円)	
前期繰越	652,395	会報発行費	89,729
会費	404,000	コピー代	5,980
資料販売	6,900	情報公開請求	5,490
寄付金	50,000	会場費	19,600
利息	70	訴訟経費	0
		旅費交通費	160,000
		事務用品費	1,085
		通信費	9,400
		備品消耗品費	0
		図書費	4,200
		全国会費	10,000
		講師料	0
		HP管理費	6,000
		雑費	12,120
収入合計	1,113,365	支出合計	323,604
		残高	789,761
訴訟積立金			2,000,000

今後の予定

月例会議・学習会 いずれもどなたでも
ご参加いただけます。

2006年

2月 1日 (水)	会報第51号印刷・発送	13:30	中原区役所
2月13日 (月)	KCT損害賠償第5回公判	11:30	横浜地裁502号法廷
2月21日 (火)	第10回拡大幹事会	18:30	中原市民館和室
3月20日 (月)	第11回拡大幹事会	18:30	エポックなかはら
3月25日 (土)	会報第52号原稿〆切日		
4月 3日 (月)	会報第52号印刷・発送	13:30	中原区役所予定
4月18日 (火)	第12回拡大幹事会	18:30	中原市民館和室予定
5月14日 (日)	第10回定例総会	13:30	エポックなかはら

**3月の拡大幹事会は
エポックなかはらです
ご注意ください**

発行 かわさき市民オンブズマン

所在地 郵便番号210-8544

川崎市川崎区砂子1丁目10番地2

ソシオ砂子ビル802 川崎合同法律事務所内

電話 044-211-0121 FAX 044-211-0123

振替 00270-3-85629

<http://www.kawasaki-ombuds.sakura.ne.jp>

E-mail: esihara28@kawasaki-ombuds.sakura.ne.jp

会報第51号 編集スタッフ 清水芳治・佐々木玲吉 2006. 2. 1